



文化庁 平成 27 年度戦略的芸術文化創造推進事業

「東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム」を見据えた
障害者のための舞踊による文化プログラム実施に向けての国内事例調査研究

調査報告書

公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団



STAR DANCERS
BALLET

第 2 章

全国の特別支援学校を対象とした アンケート調査

I 調査概要

■調査の目的

特別支援学校における芸術活動、特に舞踊（ダンス）に関する取り組みの実施状況と、その困難や要望を把握し、文化プログラムの実施・運営に向けての課題やニーズを可視化する。

■調査方法

(1) 調査対象

全国の特別支援学校 1,004 校（平成 28 年 2 月現在）

(2) 調査内容

1 芸術教育（またはそれに類する活動）の実施状況について

1-1 カリキュラムの一環（部活動や課外活動を含む）で芸術教育を行なっているか

1-2 その内容と指導者について

1-3 実施の目的とその効果

2 特別支援学校における「舞踊」について

2-1 踊ることや身体表現の好きな生徒の有無

2-2 「舞踊」に関する活動の困難と障壁

2-3 自由記述による意見・要望

※調査票（アンケート用紙）は P.24、25 を参照。

(3) 調査実施方法

《郵送配布－郵送回収によるアンケート方式》

全国特別支援学校長会のご協力を仰ぎ、調査依頼状とともにアンケート用紙を各学校の学校長宛に郵送にて配布し、記入済みのアンケート用紙も同じく郵送で回収した（回答者は学校長または担当の教職員）。

調査票には、対象の障害種（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱）を記す欄を設けた。障害種による活動内容の差異を把握するため、複数の障害種を対象としている場合は調査票をコピーし障害種ごとの回答を求めた。

(4) 調査期間

調査票は平成 28 年 2 月下旬に各校へ配布し、3 月上旬までに回収した。

■回収結果

配布数 (校)	回収数 (校)	回収率 (%)
1,004	516	51.4

調査方法の(3)で述べた通り、障害種ごとの回答を依頼したため、上記 516 校から計 629 件の回答を得た。

有効回答 (件)	629
----------	-----

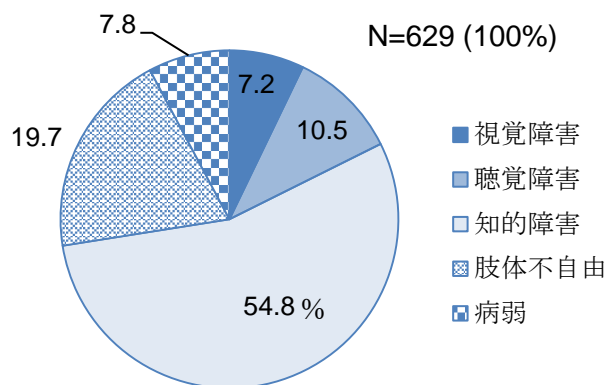
■報告書の見方

- (1) 図表の中のNは該当質問の回答者の総数。nは各項目の回答数を表している。
- (2) 比率は、Nを100%とした百分比で算出し、小数点以下第2位を四捨五入した。
そのため、百分比の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答が可能な設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。

■回答校の障害種

有効回答 629 件の障害種内訳は、多い順から知的障害 (54.8%)、肢体不自由 (19.7%)、聴覚障害 (10.5%)、病弱 (7.8%)、視覚障害 (7.2%) であった¹。

障害種	件数(n)	構成比 (%)
視覚障害	45	7.2
聴覚障害	66	10.5
知的障害	345	54.8
肢体不自由	124	19.7
病弱	49	7.8
計	629	100



¹ 文部科学省が公開している情報によると、各障害種を対象とする特別支援学校の数、平成 26 年 5 月 1 日現在で知的障害 725、肢体不自由 340、病弱 145、聴覚障害 118、視覚障害 85 である (複数の障害種を対象としている学校は障害種ごとに重複してカウントしているため、それぞれの障害種別の合計は「総計」と一致しない)。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm

調査票（アンケート用紙）

- ① 貴校ではカリキュラムの一環として（部活動や課外活動を含む）、芸術教育を行なっていますか？（複数選択）
- 音楽
 - 演劇
 - 舞踊（ダンス）
 - 造形美術
 - その他
 - 行なっていない
- ② ①で行なっている場合、その内容はどのようなものですか？（自由記述）
- ③ その指導者はどのような方ですか？（例：音楽の教員、体育の教員、保護者、外部指導者、指導者はなし 等）（自由記述）
- ④ その目的は何ですか？（複数選択）
- コミュニケーション能力の向上
 - 協調性の向上
 - 学習意欲の向上
 - 感情表現の向上
 - 身体能力の向上
 - 感動を体験させるため
 - 新たな才能の発掘
 - その他
- ⑤ その効果は見られますか？（複数選択）
- コミュニケーション能力が向上した
 - 協調性が向上した
 - 学習意欲が向上した
 - 感情表現が向上した
 - 身体能力が向上した
 - 感動を体験した
 - 新たな才能が発掘された
 - その他

⑥ 貴校において、踊ることや身体表現が好きな生徒、児童はどのくらいいますか？

(単一選択)

- 非常に多い
- まあまあ多い
- 半分くらい
- あまりいない
- いない

⑦ 質問①で舞踊（ダンス）を選択した方に伺います。舞踊（ダンス）を活用する上で、難しい点はどのようなことですか？（複数選択）

- 場所の確保
- 指導者の確保
- 生徒、児童が消極的
- 教員が消極的
- その他

⑧ 質問①で舞踊（ダンス）を選択していない方に伺います。舞踊（ダンス）を活用しない理由は何ですか？（複数選択）

- 場所がない
- 指導者がいない
- 生徒、児童が消極的
- 教員が消極的
- その他

⑨ イギリスでは、プロフェッショナルなバレエ団が特別支援学校においてバレエを指導しています。同様の取組が日本でも実施されるなら、活用してみたいですか？（単一選択）

- はい
- いいえ
- どちらとも言えない
- その他

⑩ その他何か「特別支援学校における舞踊」について、ご意見があればお知らせください。

(自由記述)

Ⅱ 調査結果

1 芸術教育（またはそれに類する活動）の実施状況について

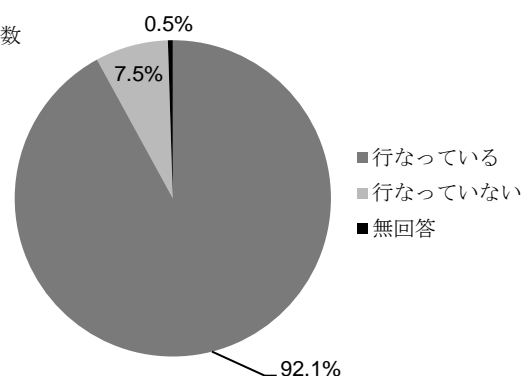
1-1 芸術教育の分野及び内容

芸術教育の実施状況を尋ねる設問では、「音楽」「演劇」「舞踊（ダンス）」「造形美術」「その他」から実施している分野（ジャンル）全てを選択し、その活動内容を自由に記述してもらった。活動内容に関する各校の回答は、後に抜粋して紹介する（P.29）。

何らかの芸術教育を行なっていると答えたのは 629 件中 579 件（92.1%）であった。活動の分野別に見ると「音楽」が最も多く（79.8%）、それに「舞踊（ダンス）」（64.7%）と「造形美術」（49.9%）が続いている。約 80% が取り組んでいると回答した「音楽」は特別支援学校において最も身近な芸術活動とすることができよう。上位 3 分野と比較すると「演劇」が 91 件（14.5%）と大幅に少なかった。これは、音楽が音楽の授業、舞踊（ダンス）が体育（あるいは音楽）の授業、造形美術が図工・美術の授業というように、教育カリキュラムに組み込まれている場合が多いのに対し、演劇は特定の教科で取り込まれることが少なく、文化祭での発表等に活動に限られることによると推察できる。また少数ではあるが、「その他」として、エアロビクス、太鼓、ソーラン節、写真等を挙げる学校もあった。

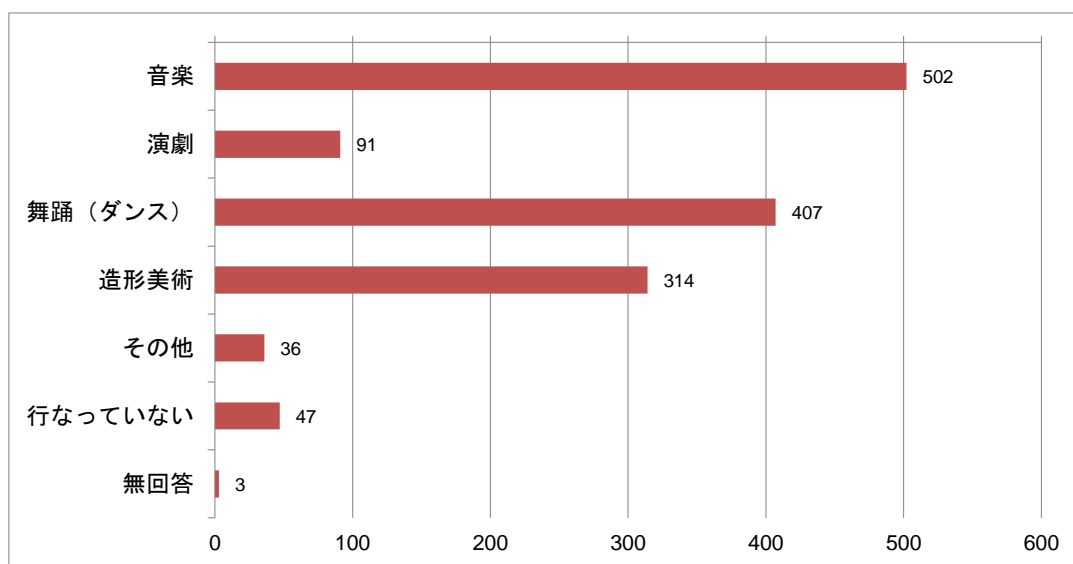
芸術教育的活動の実施状況（N=629） ※Nは設問の回答者総数

芸術活動を行なっているか？	件数 (n)	比率
行なっている	579	92.1%
行なっていない	47	7.5%
無回答	3	0.5%



分野別の実施状況 (N=629)

分野	件数(n)	割合 (%)
音楽	502	79.8
演劇	91	14.5
舞踊 (ダンス)	407	64.7
造形美術	314	49.9
その他	36	5.7
行なっていない	47	7.5
無回答	3	0.5



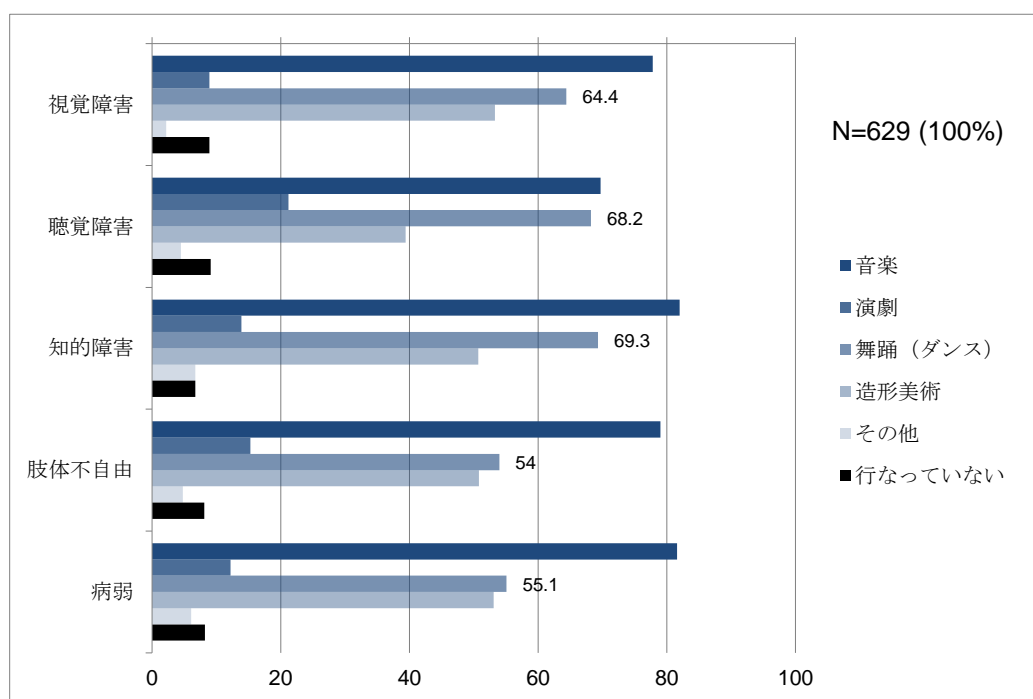
■障害種別比較

障害種ごとに結果を見てみると、比率に差はあるものの、いずれの障害種においても第1位が「音楽」、第2位が「舞踊 (ダンス)」、第3位が「造形美術」と全体で見た時と同様の結果になった。音楽に取り組む学校が多いのは、やはり授業として位置づけられる場合がほとんどということが理由のひとつであろう。聴覚障害においては、障害の特性のため他の障害種に比べて10%ほど低い数値に留まるものの、それでも芸術に関する活動として最も取り組まれている。また授業以外にも、部活動として取り組んでいるという回答が多く得られた。音楽に次いで多い「舞踊」も、「音楽」同様授業の一環として行なっている学校が多いことが分かった。自由記述からは、特別支援学校の学習指導要領に基づき、小学部（一般の小学校にあたる）は音楽の授業で、中学部（中学校にあたる）では保健体育の授

業で取り組んでいると回答する学校が多く見受けられた²。「造形美術」についても同様に、図工や美術の授業で取り組むという場合がほとんどであった。「音楽」と「舞踊（ダンス）」は、外部講師／団体によるワークショップや鑑賞会を実施しているという回答も散見された。

分野別・障害種ごとの実施状況（N=629）※Nは設問の回答者総数

	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱
音楽	35 (77.8%)	46 (69.7%)	283 (82.0%)	98 (79.0%)	40 (81.6%)
演劇	4 (8.9%)	14 (21.2%)	48 (13.9%)	19 (15.3%)	6 (12.2%)
舞踊（ダンス）	29 (64.4%)	45 (68.2%)	239 (69.3%)	67 (54.0%)	27 (55.1%)
造形美術	24 (53.3%)	26 (39.4%)	175 (50.7%)	63 (50.8%)	26 (53.1%)
その他	1 (2.2%)	3 (4.5%)	23 (6.7%)	6 (4.8%)	3 (6.1%)
行なっていない	4 (8.9%)	6 (9.1%)	23 (6.7%)	10 (8.1%)	4 (8.2%)



※グラフ内の数値は比率 (%)

² 特別支援学校の学習指導要領については巻末付録を参照。

■活動内容に関する自由記述より抜粋

分野	その内容はどのようなものですか？
音楽	<p><u>活動の形態に関する回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導（音楽の教科書に沿うもの） ・クラブ活動／部活動（吹奏楽部、音楽部、軽音楽部、箏曲クラブ等） ・課外活動として <p><u>活動内容に関する回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭での発表 ・歌唱／合唱／コーラス ・楽器演奏／合奏 ・作曲 ・鑑賞／DVD 鑑賞 ・身体表現（曲に合わせて身体を動かす） ・リトミック（リズムに合わせて動いたり簡単な振付で踊ったり） ・ミュージカルの練習 ・地域の楽団との交流 ・音楽セラピー／音楽療法を活用 ・他校と合同の音楽交流会、コンサートの実施
演劇	<p><u>活動の形態に関する回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動／部活動（演劇クラブ、演劇部） <p><u>活動内容に関する回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や学習発表会にて発表 ・コンクールへの参加 ・ミュージカル鑑賞
舞踊（ダンス）	<p><u>活動の形態に関する回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業で ・音楽の授業で ・体育の授業の準備運動として ・「総合的な学習」との選択科目として ・高等部には芸術の創作から発表まで創造的に学ぶアートコースがある ・部活動として（ダンス同好会） ・課外活動時の準備運動として

<p>舞踊（ダンス）</p>	<p><u>活動内容に関する回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会等の行事で発表 ・外部ボランティアによるワークショップ ・鑑賞 <p><u>ダンスの種類に関する回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的なリズムのダンス ・ヒップホップダンス ・創作ダンス ・リズムダンス ・フォークダンス ・バレエ ・アイドルグループなど人気の楽曲を使ったダンス ・学校オリジナルダンス／全校統一ダンス ・教員／児童・生徒が創作したダンス ・民舞（例：エイサー）
<p>造形美術</p>	<p><u>活動の形態に関する回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導（美術の教科書に沿うもの） ・美術同好会 <p><u>活動内容に関する回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・油絵のポスターの作成、コンクールへの出品 ・平面や立体の作品製作（絵画、造形、彫刻、版画など） ・身近な材料を使用しての作品作り（砂絵、豆アート、染色など） ・デザイン

1-2 指導者について

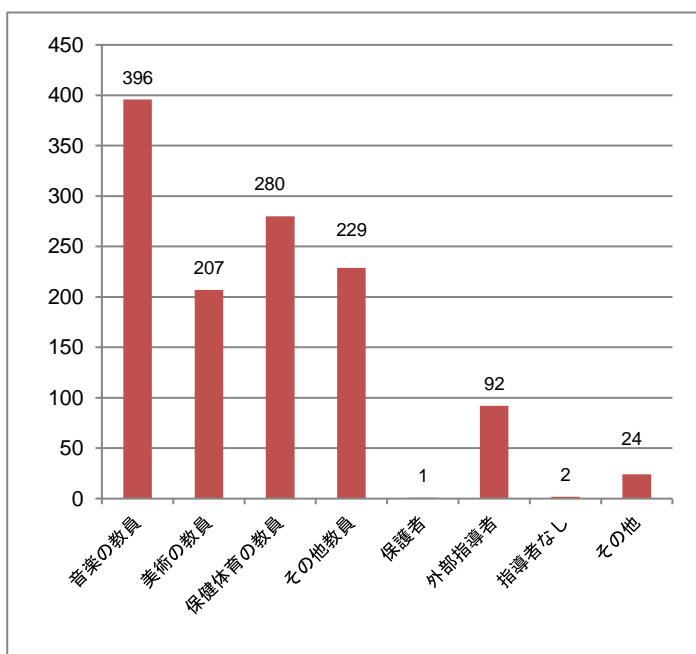
芸術教育に取り組んでいると回答した学校には、その活動の指導を誰が担当しているのか尋ねた。本調査では分野ごとではなく活動全体の指導者としての回答になるため、ここで得られる結果はどの活動にどの指導者がついていのか正確に表すものではないが、全体の傾向として音楽は音楽の教員、舞踊（ダンス）は体育の教員、造形美術は美術の教員というように、特定教科の有資格教員が指導にあたることが多いようである。

有資格教員に次いで多くの回答者が挙げたのが「その他教員」である。自由記述からも、「教科担当の教員が中心にはなるがその他の教員も指導に入る」「音楽、体育等の教科資格の有無に関わらず全ての教員が担当する」「基本的には担任の教員が担当する」など学校ごとに様々な指導体制で活動に取り組んでいる様子が窺えた。特に舞踊に関しては、体育の有資格の教員であっても指導に苦手意識を持つことが多いことから、「ダンスの好きな／得意な教員」「ダンス（指導）経験のある教員」など、専門の教科に関係なく状況に応じて指導者を立てている場合もあることが分かった。

また全体の約 16%は「外部指導者」と回答している。具体的には、寄宿舎指導員、ボランティア、地域のダンスインストラクター、民舞サークル、音楽療法士、聾者のダンサー講師、リトミック講師、地域の福祉団体からの派遣講師、部活動外部指導員、美術館員、プロダンサー、地域の陶芸家、等様々な回答が得られた。

芸術教育の指導者（N=579） ※Nは設問の回答者総数

指導者	件数 (n)	比率 (%)
音楽の教員	396	68.4
美術の教員	207	35.8
保健体育の教員	280	48.4
その他教員	229	39.6
保護者	1	0.2
外部指導者	92	15.9
指導者なし	2	0.3
その他	24	4.1



1-3 実施の目的とその効果

1-3-1 目的

芸術活動を行なっている学校には、実施の目的及び効果を尋ねた。まず目的を問う設問では、「コミュニケーション能力の向上」「協調性の向上」「学習意欲の向上」「感情表現の向上」「身体能力の向上」「感動を体験させるため」「新たな才能の発掘」「その他」の8つの選択肢から当てはまるものを全て選ぶ形式とした。複数の分野に取り組んでいる場合も、個別の分野ごとではなく活動全体の目的について回答を求めた。

最も多かったのは「感情表現の向上」で、何らかの芸術教育に取り組んでいると答えた579の回答者のうちの74.8%が選択した。その他の選択肢も、19.0%に留まった「新たな才能の発掘」を除いて、それぞれ4~5割程度が選択した。「身体能力の向上」(305件、52.7%)については、活動の分野が舞踊以外の場合が36件に留まったことから、主に身体的要素の強い舞踊(ダンス)に取り組む目的として選択されたと考えてよいだろう。「その他」としては、興味関心の拡大と余暇活動の充実が最も多く挙げられた。学校での芸術教育を通じて子どもたちの興味関心の幅を広げ、学校を卒業した後の生活をより文化的で豊かなものにしてほしいという目的で活動に取り組んでいるようである。

1-3-2 効果

芸術教育の効果としてどのようなことを実感しているかを問う設問も、上述の目的についての設問と同様に、選択肢から該当するもの全てを選ぶ形式をとった。選択肢は「目的」に呼応する形で、「コミュニケーション能力が向上した」「協調性が向上した」「学習意欲が向上した」「感情表現が向上した」「身体能力が向上した」「感動を体験した」「新たな才能が発掘された」「その他」とした。

最も多かったのは「感情表現が向上した」で、63.9%が芸術活動に取り組むことで児童・生徒の感情表現が豊かになったと感じていることが分かった。上述の目的を問う設問でも最も多かった「感情表現の向上」が、効果としても最も実感されているということになる。次に多いのは「感動を体験した」(53.0%)、僅差で「協調性が向上した」(52.2%)「学習意欲が向上した」(48.7%)が続く。芸術活動の分野に関わらず、作品製作や鑑賞を通じて達成感や感動を味わえることや、共同して何かに取り組むことで協調性を養うことができることなどが効果として認識されているようだ。「その他」の回答で多かったのは、自己肯定感、自己有用感の醸成であった。人前で自分を表現することや作品を発表し評価を得るこ

とが達成感や自信に繋がったという。また、興味関心が広がり、卒業後も継続して続けられる趣味ができた、という効果を挙げる回答もあった。

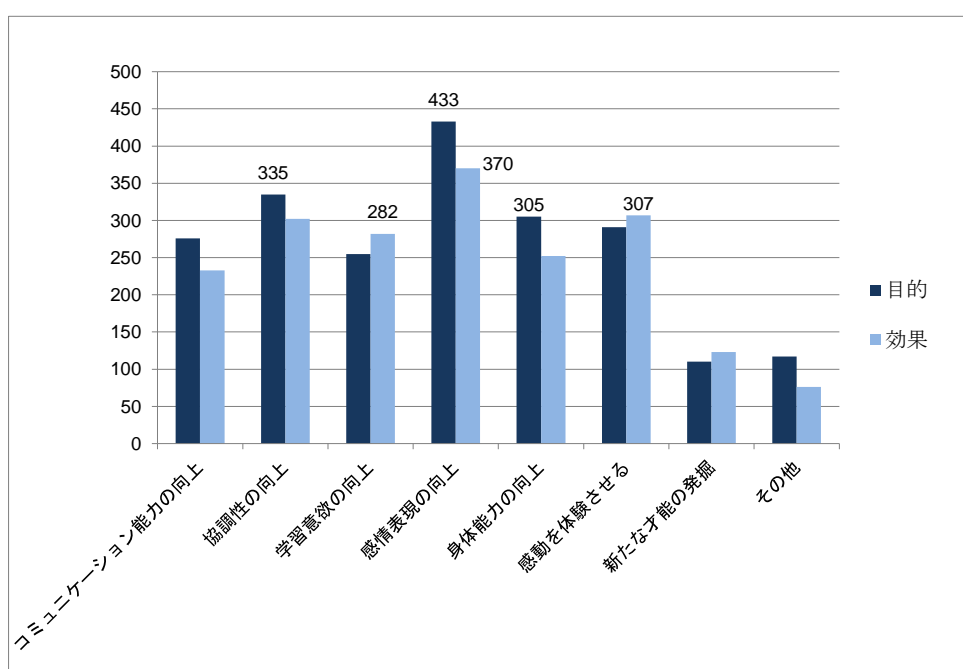
芸術教育に取り組む目的とその効果の回答結果を比較すると、「コミュニケーション能力の向上」「協調性の向上」「感情表現の向上」「身体能力の向上」においては目的の数値が効果を上回り、逆に「学習意欲の向上」「感動の体験」「新たな才能の発掘」では効果の数値が目的を上回っていることが分かる。後者3つに関しては、期待していなかった効果として実感される場合が前者3つのカテゴリーより多いことを表していると言えるだろう。

芸術活動の目的 (N=579)

目的	件数 (n)	比率 (%)
コミュニケーション能力の向上	276	47.7
協調性の向上	335	57.9
学習意欲の向上	255	44.0
感情表現の向上	433	74.8
身体能力の向上	305	52.7
感動を体験させるため	291	50.3
新たな才能の発掘	110	19.0
その他	117	20.2

芸術活動の効果 (N=579)

効果	件数 (n)	比率 (%)
コミュニケーション能力が向上した	233	40.2
協調性が向上した	302	52.2
学習意欲が向上した	282	48.7
感情表現が向上した	370	63.9
身体能力が向上した	252	43.5
感動を体験した	307	53.0
新たな才能が発掘された	123	21.2
その他	76	13.1



2 特別支援学校における「舞踊」について

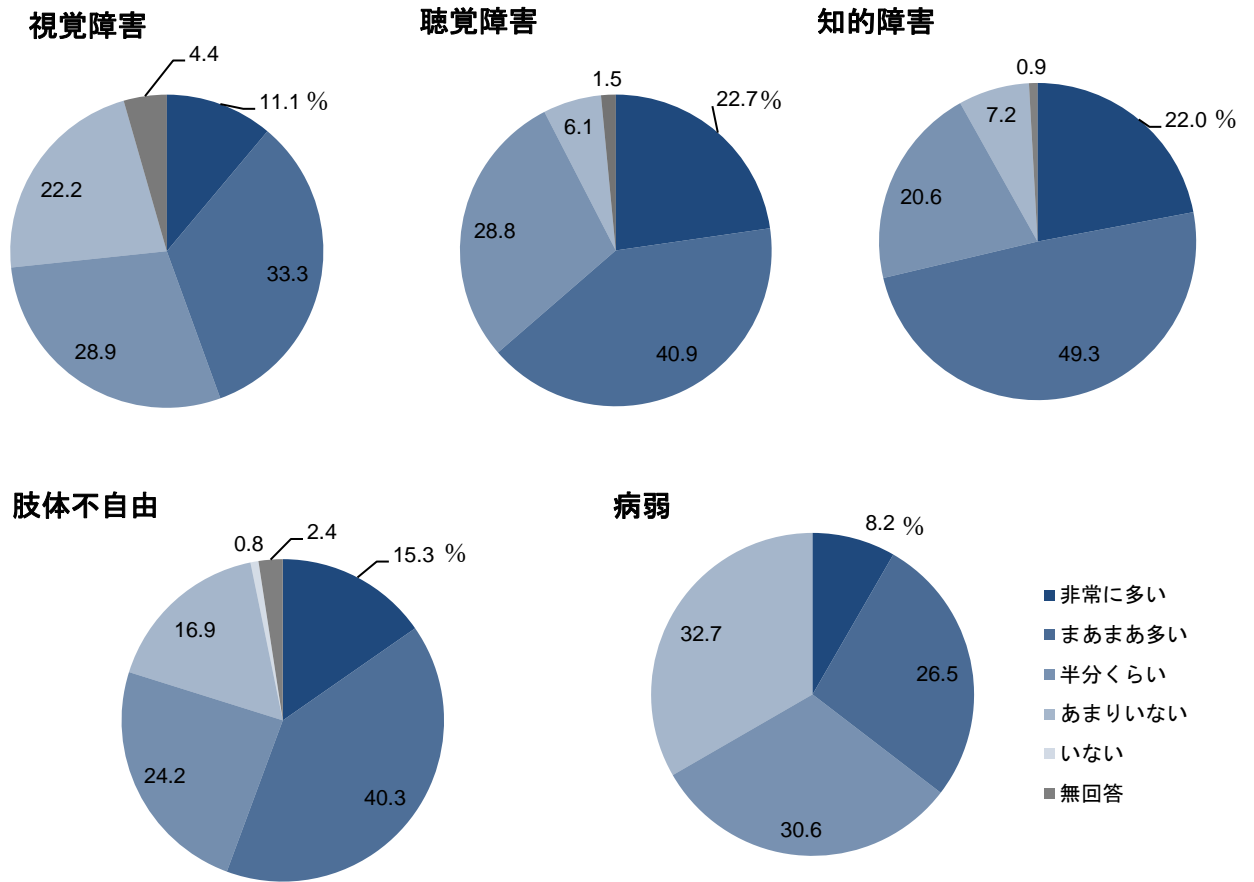
2-1 踊ることや身体表現の好きな生徒の有無

「特別支援学校」において踊ることや身体表現が好きな生徒がどれ程いるのか問う設問では、「非常に多い」「まあまあ多い」「半分くらい」「あまりいない」「いない」の5つの選択肢から一つを選ぶ形式とした。

回答結果からは、障害種によって踊りに対する反応が大きく異なることがわかった。「非常に多い」「まあまあ多い」の回答が半数を超えたのは聴覚障害、知的障害、肢体不自由である。特に知的障害では、「非常に多い」が22%、「まあまあ多い」が49.3%、合わせて71.3%と突出して高い数値となった。続く聴覚障害でも「非常に多い」と「まあまあ多い」を合わせて63.6%、肢体不自由では少し低くなるが55.6%と、障害を持ちつつも踊ることが好きな児童・生徒が相当数いることを示している。一方、視覚障害では「まあまあ多い」以上の回答数が半数に及ばず、病弱ではさらに低い34.7%に留まった。それぞれ、身体表現の重要な要素である「視覚」に障害があること、健康状態により身体を動かすこと自体が容易ではないことが主な理由と考えられる。全体としては、特別支援学校における「舞踊」の可能性を大いに期待できる結果となったが、障害の種類によってはその特性をふまえた十分な配慮が必要であると言えるだろう。

踊ることや身体表現の好きな生徒の有無 (N=629) ※Nは設問の回答者総数

	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱
非常に多い	5 (11.1%)	15 (22.7%)	76 (22.0%)	19 (15.3%)	4 (8.2%)
まあまあ多い	15 (33.3%)	27 (40.9%)	170 (49.3%)	50 (40.3%)	13 (26.5%)
半分くらい	13 (28.9%)	19 (28.8%)	71 (20.6%)	30 (24.2%)	15 (30.6%)
あまりいない	10 (22.2%)	4 (6.1%)	25 (7.2%)	21 (16.9%)	16 (32.7%)
いない	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (0.8%)	0 (0%)
無回答	2 (4.4%)	1 (1.5%)	3 (0.9%)	3 (2.4%)	1 (2.0%)
計	45	66	345	124	49



「非常に多い」「まあまあ多い」を合わせた割合 (%)

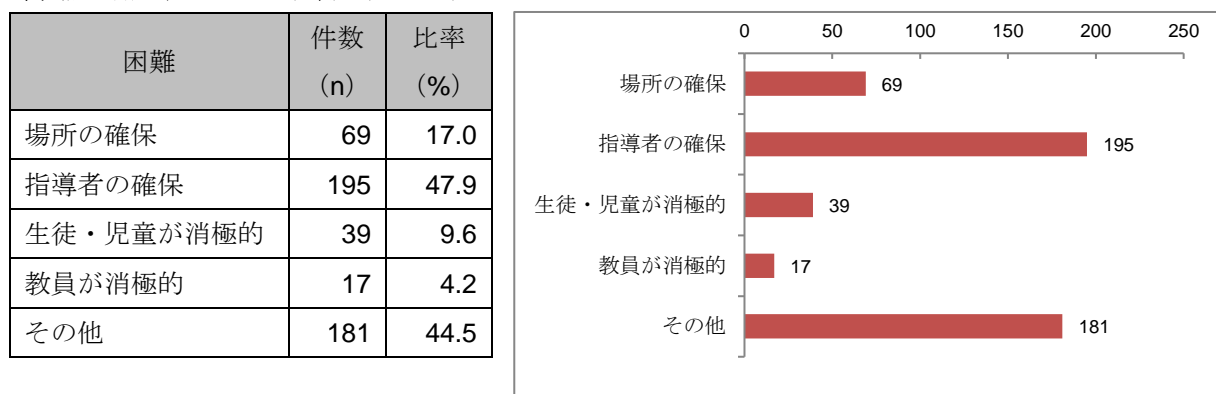
視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱
44.4	63.6	71.3	55.6	34.7

2-2 「舞踊」に関する活動の困難と障壁

「舞踊」に関する取り組みを行なっているところにはその困難な点を、行なっていないところにはその理由を尋ねた。どちらの設問も 5 つの選択肢から該当するものを全て選ぶ形式とした。選択肢はそれぞれ「場所の確保／場所がない」「指導者の確保／指導者がいない」「生徒・児童が消極的」「教員が消極的」とし、これらに当てはまらない場合は、「その他」として記述による回答を求めた。

2-2-1 舞踊を活用する際の困難

舞踊を活用する上での困難 (N=407) ※Nは設問の回答者総数



困難な点としては、「指導者の確保」が最も多く全体の半数近く (47.9%) が挙げた。次に多かったのは「場所の確保」(17%) である。これは音楽や造形美術と異なり、大きく身体を動かす舞踊 (ダンス) に特有とも言える課題であろう。次いで「生徒・児童が消極的」(9.6%)、「教員が消極的」(4.2%) と続いた。

また非常に多くの回答者が、「その他」として上記以外の課題を指摘した。その主な回答を以下に示す。

a. 指導方法に関する回答 (90 件)

- ・ 指導方法が分からない
- ・ 児童・生徒の障害の実態差に合わせた指導内容を考えるのが難しい

b. 生徒の障害の特性や実態差に関する回答 (46 件)

- ・ 模倣による (見て学ぶ) 振りの習得ができない (視覚障害)
- ・ リズムをとることが困難 (聴覚障害)
- ・ 身体の可動域に制限がある (肢体不自由)

c. 時間の確保に関する回答（15件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導内容を考える時間の確保が困難 ・ 授業時間を確保できない
d. 指導者の経験・専門性に関する回答（9件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者が経験不足 ・ 専門知識がない

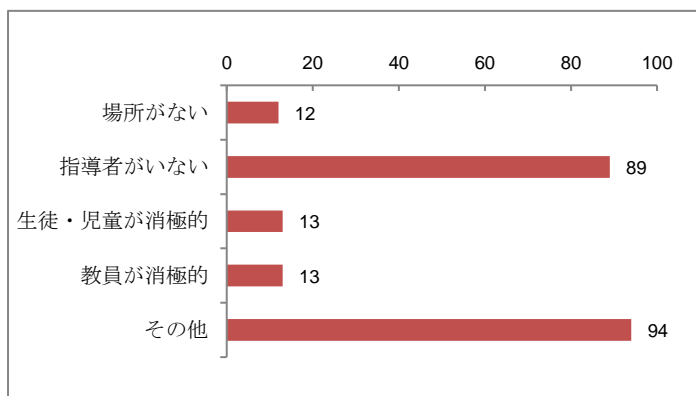
「その他」で挙げられた内容で最も多かった意見は、指導方法に関するもの（a）であった。例えば同じ知的障害でも、児童・生徒によってその障害の程度や理解度が異なるため、皆に合わせた指導法を確立できないという意見が多く見られた。次に多かったのは児童・生徒の障害の特性により指導が困難という意見である。子どもたちのできることに制限があるため、「できること」に合わせた指導法を考えるのが負担になっていること等に言及する意見が多数あった（b）。視覚障害の生徒はダンスを見て真似て覚えることができないため、全て言葉のイメージでダンスのステップを伝えなければいけない、といったものが含まれる。次いで教師が授業準備の時間を十分にとれないという意見や、指導者はいるものの専門性に欠け授業展開が上手くいかないという意見もあった（c,d）。（「その他」として挙げられた回答例は P.53 を参照）

この他少数意見としては、外部指導者を依頼する際の費用など予算確保についての回答や、指導にあたっての音楽機器や鏡など備品の準備についての回答があった。既存の選択肢と「その他」の回答を総じて見ると、指導者と指導方法に関する回答が大多数を占めたということができよう。

2-2-2 舞踊に関する活動を妨げる要因

舞踊に取り組まない理由（N=222）※Nは設問の回答者総数

理由	件数 (n)	比率 (%)
場所がない	12	5.4
指導者がいない	89	40.1
生徒・児童が消極的	13	5.9
教員が消極的	13	5.9
その他	94	42.3



舞踊（ダンス）を取り入れていない理由として最も多かったのは、舞踊を行なう上での困難と同じく指導者に関するものであった。舞踊を行っていないと答えた回答者のうち約40%が「指導者がいない」を舞踊に取り組まない理由として選択している。次いで同列で「生徒・児童が消極的」「教員が消極的」（5.9%）、さらに僅差で「場所がない」（5.4%）が続くが、これらは実施に至らない主たる理由ではないと考えて良いであろう。

また本設問に対する回答でも「その他」が非常に多い結果となった。以下にその主な内容を記す。

a. 生徒の障害の特性や実態差に関する回答（45件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の実態差が大きく、身体を動かすことが難しい生徒もいるため ・ 障害の重い児童の実態から活用は難しいと考えるため ・ 自己肯定感や成功体験に乏しく表現活動に入る準備ができていないため
b. カリキュラムに関する回答（20件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで取り組んできたカリキュラムに新しいものを取り入れるタイミングがなかった ・ 他の活動（カリキュラム）が充実しているため

「その他」の回答で最も多かったのは、生徒の障害の特性や生徒間の実態差のために舞踊を行なうのは難しいという意見で45件あった（a）。中には、生徒の障害の重さを考慮すると芸術活動に取り組むのは優先事項ではないという意見もあった。また、カリキュラムに関する回答も一定数見られた（b）。これまで取り組んでこなかったためにカリキュラム導入のタイミングが分からないといったものから、他の活動を行なっているため舞踊を行なう必要性がないというものまであり、舞踊を教育課程にいかに位置づけるかについては各校様々な考えがあることが窺えた。（「その他」として挙げられた回答例はP.54を参照）

舞踊に関する取り組みを実施しない、あるいは実施できないのは、第一に「指導者がいない」こと、第二に児童・生徒の障害や実態差から舞踊の指導は困難である、または適当ではないと判断していることが大きな理由となっていることが窺える結果となった。

2-3 「特別支援学校における舞踊」に対する自由意見・提案

アンケートの最後に「特別支援学校における舞踊」に対して自由な意見を求める欄を設けたところ、様々な意見が計 156 件寄せられた。記載内容で特に多かったのは下記の 4 つのカテゴリーに属するものであった。

内容	件数
a. 指導者に関して	31
b. 目的／効果／期待すること	31
c. 提案／要望、情報提供を求める声	23
d. 困難・課題／不安	23

ここでは寄せられた意見から代表的・特徴的なものを、上記のカテゴリーごとに抜粋して紹介する。なお、同じような意見は、代表的なもののみ掲載している。また、文章は原文を基本としているが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは一部省略・修正して掲載する。

a. 指導者に関して

最も多く寄せられたのが、指導者に言及する意見である。指導者の専門性がなく指導が困難であることや、外部からの専門的な指導者派遣を望む声が多く聞かれた。

都道府県	障害種	意見
長野県	視覚障害	外部講師をお願いすると費用がかかるので、年に数回しかお願いできない。視覚障害者に伝えるノウハウをもった盲学校職員と協力して指導することが望ましい。
鹿児島県	視覚障害	専門の方が特別支援学校向きの指導内容を教員に指導して下されば、自信をもって指導できるし、指導の機会も増えるような気がします。
北海道	聴覚障害	コミュニケーションのことがあるので聾者のダンサーが来校し指導していただける機会があれば良いと考えています。
福岡県	聴覚障害	障害種ごとによる舞踊教育の立場からの学習内容の精選が必要。

滋賀県	聴覚障害	聴こえに障がいがある子どもたちですが、音楽に合わせて身体を動かすことはとても好きです。単に振りマネをするだけでなく、表現することの真の喜びや楽しさを味わうためには、やはり“本物”であるプロフェッショナルな指導が必要だと感じています。
東京都	知的障害	専門家がじっくり関わる中で知的障害者の能力を伸ばしていけるのか、実践していただけたらありがたい。
栃木県	知的障害	(指導者の) 研修の機会があると良い。
福井県	知的障害	指導する上で指導者と生徒の間に感覚のズレがある。時間や場所の変更などに対応できない。視覚障害支援が重要。
大阪府	知的障害	支援校にはダンスを専門とする教員がほぼいないので外部の力を借りたい。子どもたちとパラリンピック開会式に…遠い夢ですが…
熊本県	知的障害	専門性の高い(障害理解も含めた)教師、指導者がなかなか確保できない。実態に合わせたダンスの指導、メンバー構成が難しい。(本校の場合は、特に児童生徒数が少ないため)
鳥取県	知的障害	継続的指導のための指導者確保が課題。
福岡県	知的障害	表現活動の一つとしてとても有効であるし、どんどん取り入れたいところですが、指導者の力量と生徒のニーズが必ずしも一致しないなど壁はたくさんあります。
福岡県	知的障害	バレエストレッチなどから少し踊るものまでちゃんとした指導者のもとでやれるものなら。
宮崎県	知的障害	「舞踊」の範囲は広く何をどのように指導していけばよいか。支援学校の生徒(障害の程度など)にどのように対応していけばいいかという教員の指導力・技術力に不安が大きい。
広島県	知的障害	舞踊を特別支援学校の児童生徒に継続的に体験させることは大変有意義なことと考えるが、自発的な動きを引き出し、作品を作るには指導者の力量が必要なためなかなか難しい。
秋田県	知的障害	身体を動かし、リズムを楽しめる子どもは多いので、表現力を引き出せる指導者の派遣はとてもありがたい。

秋田県	知的障害	専門的な知識のある舞踊の指導者が欲しい。
福岡県	知的障害	指導者・指導に必要な環境が整えば指導を受けたいし、試みてみたい。
北海道	知的障害	本人たちはノリノリでやってくれると思います。私たち職員がそれについていけるかが課題といえば課題です。
滋賀県	知的障害	学園祭等に向けたダンスは県内各校で取り組んでいると思います。そこに外部講師による指導を合わせるとより本格的なダンスになっていくと考えます。
東京都	知的障害	・指導者を派遣していただけるシステムがあると良い。 ・生徒だけでなく教員の指導をしていただけると良い。
神奈川県	肢体不自由	肢体不自由教育部門では、身体の可動域が小さく自由に動かせないためダンスについての専門知識よりも理学療法士や作業療法士のような身体についての専門知識を合わせ持つ指導者が適しています。
福岡県	肢体不自由	地域の舞踊の先生を招聘して一緒に活動したり公開してもらったりする教育活動があればよい。
神奈川県	知的障害 肢体不自由	色々なジャンルのダンスの外部講師が来て指導していただけると、幅の広い授業や、特別活動に結び付けられると思います。
兵庫県	知的障害 肢体不自由 病弱	本校では今年度障害の種別にカリキュラム等変更しませんでした。毎年、本校の運動会でダンスを披露しています。5月ごろから練習を始め9月に本番を迎えます。ダンスの指導は体育教師が行なっていますが、ダンスの経験がないことに加え、障害の程度の違いが大きく指導の難しさを感じています。

b. 目的／効果／期待すること

舞踊やプロの芸術家とのふれあいによって得られる教育効果に言及する意見も多く寄せられた。既に舞踊に関する活動を行ないその効果を実感している学校は、これからも積極的に活用していきたいという前向きな姿勢が窺える。

都道府県	障害種	意見
青森県	視覚障害	視覚に障害のある子どもたちにとっても豊かな音楽の中で身体表現をすることはとても興味深いものです。ボディイメージをうまく感じとったり表現したりすることは難しいですが、心の中で共感できるものが多くあると思います。
大分県	聴覚障害	情緒教育のためには必要だと思います。
神奈川県	聴覚障害	特別支援学校とひとくくりにするのは難しいかもしれませんが、感情表現や発露の苦手な子どもが多いように思います。そこを育てるツールの一つとして有効な手段であると思います。
福岡県	聴覚障害	舞踊は障害に関係なく自分を表現できる貴重な活動だと思うので、これからも積極的に取り入れていきたいです。
秋田県	知的障害	言葉のない児童生徒の自己表現のひとつとして、とても有効だと思う。
兵庫県	知的障害	ダウン症のお子様は生まれつきリズム感も良く、歌や踊りに対して積極的に取り組んでいます。いずれの指導についても個人の伸長ではなく、グループとしての伸長を目指しているため、そこから連帯感も生まれています。
不明	知的障害	私の学校では、リズム感の良い生徒がたくさんいます。体を動かすことで身体表現でき、見られている意識が高まると楽しみが増えるので良いと思います。
山形県	知的障害	心身の健康的な動きを促進する意味において有効と考える。
北海道	知的障害	特別支援学校の子供たちにとって本物の生のダンスに触れる機会はとても有効であるので（臨場感を味わったり五感を刺激することで実感を得やすい）、プロのダンサーに教えてもらったり鑑賞する機会が多くあると良いと思います（普段触れる機会が少ないので）。このような経験が子どもたちの夢や希望に繋がったりダンスへの意欲づけになったりすると思います。
宮城県	知的障害	身体能力の向上だけでなく身体意識の向上にもつながると考えますので、有効だと思います。
群馬県	知的障害	自分の意思を言葉で伝えられない児童・生徒にとって舞踊は自己表現の重要な手段となっている。

静岡県	知的障害	ダンスを通して生徒同士の協調性や表現力の向上など良いあらわれが見られたため、積極的に取り入れていけると良い。
大阪府	知的障害	ダンスが好きな生徒もそうでない生徒も、特に経験のない生徒は、最初は戸惑いながらも踊れるようになってくるといきいきとして表現することを楽しみ、楽しめるようになってくる。様々なジャンルの舞踊を経験できる機会を子どもたちに作るべきだと感じる。舞踊を通して、身体表現のみならず、手具を用いたり音楽を聴いたり衣裳を身につけたりと多方面において学ぶことができると強く思います。
鳥取県	知的障害	特別支援学校の生徒は、障害の特性や経験不足等により自分に自信がない生徒が少なくありません。ありのままの自分を表現する力や人前で演じた後に感動の拍手をもらい自信をつけていくことがとても必要だと感じています。
奈良県	知的障害	舞踊にも色々とジャンルがあると思いますが、その中でも1番難しいバレエやコンテンポラリーダンスに取り組みだして6年。卒業生も土日に参加して部活動をしています。本校のように軽度の知的障害を持つ生徒たちにとって、身体の動きを自身が知ることへのアプローチは本当に時間がかかりますが、基礎を身につけて舞台に立つということが大切だと思います。パールテール ³ を取り入れて活動することで、怪我が全くなく練習できています。障害の有無に関わらず、舞台に立ちお客様の前で自分の踊りを舞うことを通し、自分が舞台に立つまでにどれだけ多くの人々が支えて下さり踊らせていただいているのかを学ぶことができます。舞踊は彼らにとって大切なものだと思います。
三重県	知的障害	本校の児童生徒はダンスや音楽が好きで癒しの時間になっている子どもも多く、積極的に取り組む姿勢が見られる。
千葉県	知的障害	身体表現をすることは身体能力の向上や心理的安定にもつながると思うので良いと思う。
大分県	知的障害	リズムダンス、創作ダンスなどを通じて表現力を高めることに有効だと思われる（感情表現が苦手な生徒も多い）。

³床に寝ながら行なうエクササイズのこと。

茨城県	知的障害	ダンスは運動量及び知的な能力も必要な総合スポーツだと思います。自己有用感に繋がっていくのであれば素晴らしいです。
福島県	知的障害	自分で音を感じて身体を動かすことが好きな児童生徒も多いので、表現活動は不可欠であると感じる。
東京都	知的障害	はじめの頃は恥ずかしがっていた生徒も何か大きなイベントという目標に向けて取り組んで、努力した結果を発表すると達成感を味わい自信を持つ。表現については、いろいろな発想、色々な動きをみだすこともありとてもおもしろい。身体を使って豊かに表現できるようになってほしくて指導しています。舞踊は心を一つにして作り上げることを学ぶいい機会です。
富山県	知的障害	舞踊（ダンス）の創作活動は、特別支援学校の子どものための、動いたり表現したりする喜び、人と関わる喜びを引き出し、自分の持てる力を主体的に発揮し、しいては QOL を高めようとする態度の育成に繋がると思われます。
福岡県	知的障害	音楽に合わせて身体を動かすことを好む児童生徒が多いため、取り組みを工夫することで有意義な活動になることが期待できる。 例1 シンプルな動きの組合せによる構成 例2 継続して取り組むための教育課程への位置づけ
大阪府	肢体不自由	自分を表現することはいいと思うので、どんどん取り入れていきたいと思う。
東京都	肢体不自由	特別支援学校の生徒にも、本物に触れて活動の幅を広げてあげたい。特別支援学校の生徒が、小学校、中学校、高校などの生徒と一緒に同じ活動ができるように場を設定することで、達成感を感じ、心を震わせることができるのではないかと思う。
神奈川県	肢体不自由	特別支援学校においても音楽や体を動かす表現は必要。個人から集団まで色々な表現の可能性があり、そんな体験ができるといいです。
滋賀県	肢体不自由	体幹をしっかりさせたり、大勢で一緒に楽しめたり、ボディイメージを持たせたりと大切な要素がたくさん含まれているため、今後も学校で取り組んでいく予定です。

静岡県	肢体不自由	自分で身体を動かさない子や自分で車いすを動かさない子たちもいるが、曲を聴いたり、体を動かしたりすることが好きな子たちが多いので、一人一人の動きに合わせた楽しめるダンスができれば素敵です。そして、みんなに賞賛を受けたら自信につながると考えています。
神奈川県	病弱	本校は病弱特別支援学校であり児童生徒は入院治療中、病気もさまざまである。車いすの児童生徒も多い。この3年間文化庁の芸術家派遣事業でプロダンサーに来校してもらい画期的な教育的効果を上げている。ぜひ広めたい。
沖縄県	視覚障害 聴覚障害 知的障害 肢体不自由 病弱	舞踊・ダンスは運動会、学習発表会等の各行事でも多く取り入れられており、教育効果も大きなものが得られます。
岐阜県	知的障害 肢体不自由 病弱	児童生徒が自分の表現の幅を広げたり、音楽や体を動かすことを楽しんだりする機会、その延長として余暇活動の充実へと繋がればよい。

c. 提案／要望、情報提供を求める声

指導の仕方やカリキュラムの位置づけについての提案や意見も挙がった。要望を訴える意見の中では、特に実施方法や事例の情報提供を求める声が目立った。見本となる教材やプログラムの提供を期待する意見が多く、指導方法の確立を手助けするような支援が急務であると言えるのではないかな。

都道府県	障害種	意見
長崎県	知的障害	ダンスを通して様々な力を身につけるツールとして活用することが多いが、感性や情操を高める教育として位置付けるとより生活を豊かにしていくのではないかな。
神奈川県	知的障害	リズムに乗って楽しく活動できる内容であれば児童・生徒も喜んで参加すると思います。動きも簡単なものの繰り返しが良い。
神奈川県	知的障害	教育課程外（部活動等）での活用については選択肢の一つとして検討できると思います。

三重県	知的障害	音楽に合わせて楽しく身体を動かすことができるかを重視しているので、振付通りに踊らなくても OK だと思います。音楽が聞こえてくると自由に走り回ったり、伸び伸びと身体表現したりする姿は、気持ちが解き放たれて良い活動だと思います（重度の生徒について）。
大阪府	知的障害	ダンスを創作するだけでなく、嵐や AKB などを真似て踊ることも喜ぶので、振り方をアレンジしたり踊りやすい曲を選んだり、またテンポを変える工夫をすることでいろいろな場面でダンスを楽しむことができています。
山梨県	知的障害	体育の授業で舞踊に取り組むのは厳しいが、踊りが好きな生徒、踊ることができる生徒もいるので課外活動としてなら実施できるのではないかと。
熊本県	知的障害	何かのイベントなどでの発表の機会も大切だが、障害のある児童生徒の情操を高めその能力を発揮させるために日常的にそれぞれの地域の良さを生かして継続的に取り組むことが大切だと考える。そのための地道なサポートを期待します。
北海道	知的障害	音楽に合わせて体を動かすことが好きな生徒が多いが、上手に動かせない生徒もいるので、形よりも楽しめる内容を重視しています。そのようであれば（バレエによるプログラムの）活用も考えてみたい。
神奈川県	知的障害	大きく身体を動かすようなダンスが理解しやすく楽しさを実感できると思っています。
神奈川県	知的障害	踊ることがとても好きで意欲的に参加する生徒が毎年います。とてもいきいき取り組むので、発表の場が確保されるといいと思います。
新潟県	知的障害	児童生徒の実態に合わせた活動が組める様々なプログラム例があれば知りたい。
大阪府	知的障害	リズム感を養う教材などの提供があれば取り組みやすいと思います。
千葉県	知的障害	「舞踊」という言葉になると難しいですが、児童・生徒、身体を動かすことは好きです。舞踊という言葉に合った活動例を紹介していただけると助かります。

兵庫県	知的障害	身体や心をほぐすダンスなどがあれば知りたいという要望があります。
山梨県	知的障害	音楽に合わせて身体を動かす子が多いので、大切な活動の一つとなっています。もっとのびのびと楽しく踊れるような簡単な振付ビデオ等あればいいなと思います。
群馬県	知的障害	毎年、全国の特別支援学校向けに共通のダンスがあるとよいです。(新潟トキめき国体で「ガムシャラな風になれ」を共通で踊りました。)
大阪府	知的障害 肢体不自由	言葉を持たなくても表現できるのがダンス。緘黙の生徒がダンスに取り組む事例があれば知りたい。
千葉県	肢体不自由	障害種や障害の程度、発達段階に応じた取り組みができるとよい。
兵庫県	肢体不自由	肢体不自由児への舞踊の実践例など資料があれば情報を流してほしいです。
千葉県	肢体不自由	特別支援学校には「身体表現」が好きな生徒が多いです。よい情報があればお知らせください。
神奈川県	肢体不自由	車いすを使用している生徒が殆どなので車いす使用者でもできるものがあれば、教えていただきたい。
東京都	病弱	比較的現在もクラシックバレエは裕福な家庭が多い。貧富の差なく、あらゆる人々に開かれていかなければバレエそのものが広がっていかない。特別支援学校でバレエを取り入れたい。私自身がバレエをしている。難点は型が決まっているクラシックバレエをどの辺まで取り入れていくかだと思う。機会がありましたら、バレエを教えに来てください。
沖縄県	病弱	病弱にもいろんな人がいるので対応できるためのプログラムを知りたい。

d. 困難・課題／不安

舞踊に取り組んでいる学校、まだ実施に至っていない学校の双方から、活動の上での困難や課題、不安点が寄せられた。

都道府県	障害種	意見
神奈川県	視覚障害	学校行事の体育祭で舞踊を実施したことがありますが、色々な動きの組合せにより作品が完成するため本校の生徒が習得するには大変な労力と時間を必要とするため授業で取り扱うことは難しいと思われます。
愛知県	視覚障害	視覚に障害があるため、動きを見て模倣することが難しい。細かい動きやステップなどを習得することが難しい。言葉による説明である程度は出来る。
岐阜県	視覚障害	視覚障害のある児童生徒は視覚を通しての模倣が困難で、動きの効果的な指導法を探っていきたいと思ひます。
和歌山県	聴覚障害	聴覚障害なので、普通の音量では伝わりにくい。そのためかなり大きな音で行なう必要があり他の支援学校の子供たち（自閉的な傾向のある方）と一緒にやりにくい（音量のことでパニックを起こす原因ともなるため）。ダンスを通して「自分たちも踊れるのだ」という自信をつけ、社会に出た後も趣味でダンススクールに通っている生徒もいます。
愛媛県	聴覚障害	ダウン症の生徒は音楽やダンスを特に好むが自閉症の傾向のある生徒は音や光に過敏に反応して怖がるものもいます。一律の動きや行動を求めることは私たちの進める教育に合わない面もあります。
鳥取県	知的障害	生徒のレベル差が大きいためグループ化して行なう必要がある。
大阪府	知的障害	子どもたちが楽しく身体を動かして簡易にできるダンスであれば、意欲的に取り組んでいるが、本格的なバレエになると難しいと思われる。
東京都	知的障害	身体的に動きが覚えにくかったり速い動きができなかったりする生徒が多いです。1回で振りを覚えてしまう子もいれば1回のターンが難しい子もいます。ほとんどの生徒は音楽が流れると自由に踊りだします。

沖縄県	知的障害	生徒の実態に応じた指導が難しいのと、動ける生徒だけのクラス編成が難しく重複の生徒の指導が難しい。
奈良県	知的障害	創造的なダンスは難しいが、音楽やリズムに乗って身体を動かすのが好きな児童生徒は多い。苦手な児童生徒もいるため内容を考えるのが難しい。
静岡県	知的障害	集団が大きいため、実態に合わせたダンスを考えることが難しいが、生徒が生き生きとしている姿が見られるようにしていきたい。今後の実施方法について悩んでいる。
茨城県	知的障害	本校は車いすを使用している児童生徒が多いため、上半身の動きが中心になってくると思います。また、独歩（歩行が可能）の児童生徒も速いテンポの動きに難しさがあると思います。
兵庫県	知的障害	障害特性が多様で一律に指導することが難しい。また、継続的に指導する必要があり、外部講師が長期的に指導してもらう必要がある。
沖縄県	肢体不自由	本校は重度重複障害の子どもたちが多く在籍しています。ほぼ全員が車いすを利用し、表情や動きでの表現が難しい生徒もいます。それでも歌が好きだったり、音楽が聞こえると覚醒したり、楽しく参加したいという意志を感じています。
栃木県	肢体不自由	【中学部】生で体験できることは良い学習だが、肢体不自由であることから制限があり、取り組むことが難しい。 【高等部】「自分にできる」ということが体感できる学習機会として考えていきたいと思う。
北海道	肢体不自由	舞踊自体の経験がない。
群馬県	肢体不自由	様々な障害を持つ生徒がいる中でどのように舞踊を取り入れて良いのかわからない。全員が楽しめるような授業ができるだろうか。また思うように身体を動かせない生徒に身体を使って表現することは少し難しいかなと感じる。
宮城県	肢体不自由	出来る範囲で十分活動できる内容を考えることが難しい。
千葉県	知的障害 肢体不自由 病弱	「車いす」ダンスなど過去に実施したこともありますが、子どもたちが主体となるということが難しい面があります（大人が踊り中心になってしまう）。いかに子どもたちが積極的に参加できるかを考えていくのが今後の課題だと思っています。

その他

その他の意見としては、舞踊に関する取り組みでも「鑑賞」を希望するといった意見（14件）や、舞踊は舞踊でもバレエのように型が決まったものではなく、自由な表現を促すような種類のダンスがよいのではないかという意見まで様々寄せられた。

都道府県	障害種	意見
長野県	聴覚障害	ダンスは子どもたちにはなじみがあるが、得意な教員はあまりいない。バレエは子どもたちにも教員にもなじみがないので難しいと思う。
不明	聴覚障害	本校は、幼～高まで幅広い子どもたちが登校しています。ダンスは、耳の聞こえにくい子どもたちにリズムや音楽を感じさせたり、体で表現させたりできるので、社会に出たときに色々なことに役立つと思います。
福岡県	聴覚障害	無料もしくは少ない経費負担で可能ならば鑑賞はしたい。
不明	聴覚障害	身体表現がしたくても方法が分からない、恥ずかしいと思う生徒はたくさんいると思います。もっとダンスが身近に感じられるような環境作りが必要なのでは？
東京都	知的障害	バレエを鑑賞できる機会がもっと身近にあればと思います。
東京都	知的障害	バレエの指導より前にバレエを観たこともない生徒が多い。スポーツでも音楽でもプロフェッショナルな方々に来ていただいて実際に生徒に見せてほしいです！
埼玉県	知的障害	身体のぎこちなさがあるためプロにバレエを教わりながらの授業は難しい。また、何か月、何年も継続しなければ身につかない。感性を磨くプロの鑑賞、ダンサーとの関わりは是非してみたい内容である。
鹿児島県	知的障害	プロの劇団の公演を鑑賞させたい（行きたくても周囲を気にして個人でいけないことが多いので）。その上で、舞踊など授業に取り入れたい。
大阪府	知的障害	まずは公演等を鑑賞する機会があれば生徒の興味も膨らむと考えます。

香川県	知的障害	特別支援学校の生徒児童は、皆、音楽・ダンスが大好きである。能力が低く、正しい音階やダンスの決められた難しい動きで踊るのは不得意であっても、体の中からあふれる本能の部分の表現は楽しんでできる。逆に能力の高い生徒は歌手やアイドルの踊りを好む。
東京都	知的障害	(舞踊のプログラムについて) これまでバレエ教室など通いたくても受け入れを行なうところが少なかったため、保護者のニーズもあると思う。
長野県	知的障害	子どもたちの興味関心から必要性が生じるのではじめに演目ありきでは活動が組み立てにくい。
香川県	知的障害	舞踊となると高度な動きが要求されるのでは？知的障害の場合、ある程度自由度のある踊りが良いと思う。
宮城県	知的障害	教育課程（カリキュラム）にどのような形で活用すべきか検討しております。
大阪府	知的障害	長らくダンス指導に（一般高校、特別支援校）携わってきました。保健体育：ダンス専門（ジャズ、HIPHOP、創作ダンス、リズムダンス）高校から特支に移り、特支におけるダンスは音楽授業（リトミック?!）と密に関わっていると感じました。技能の向上もさることながら、子どもたちが笑顔で心踊る（踊らせる）ことが大切です。そのために指導者としてどのように工夫すべきかが日々テーマです。また支援校では、振りに集中して心で感じとれない振付よりは、できるだけ簡素でわかりやすく気持ちよく身体が動かせる振付が望ましい、と経験から感じました。エアロビクスのリズムはとても参考になります。バレエによって「創造性」を養えると思うので、生徒のイメージから動作を発展できるような指導者に伸ばしていただきたい。どんな動きも心を入れればダンスになる！ということを私は伝えていきたい。
群馬県	肢体不自由	問⑨のような事業があればとても素晴らしいことだと思います。本校は肢体不自由校で難しいところもあるとは思いますが、プロのバレエを観るだけでも貴重な経験になると思います。

山梨県	肢体不自由	多くの場面でダンスや体操など音楽に合わせて体を動かす活動があります。ただ舞踊の専門家に合うことはまれなので生で鑑賞できたらと思います。
沖縄県	肢体不自由	もっといろんな生徒が興味を持ち踊れるダンスがあると嬉しい。
宮崎県	肢体不自由	「バレエ」となるととっつきにくさもあるかもしれませんが、「バレエと障がい者」興味はあります。
徳島県	知的障害 肢体不自由 病弱	体で表現することで新たな能力を伸長できればと思っているが、体育祭や文化祭に限定している段階である。

〈アンケート回答補足〉「舞踊」に関する活動の困難と障壁

⑦ 質問①で舞踊（ダンス）を選択した方に伺います。舞踊（ダンス）を活用する上で、難しい点はどのようなことですか？

■ 「その他」の回答

- ・ その日の気分によって子どもの取り組む姿勢や意欲にムラがあり、その気にさせることが難しい。
- ・ 教材を一から考えること／教材が少ない
- ・ 時間の確保
- ・ じっくり時間をとって取り組みたいが、他の授業内容との関係で指導時間が限られる。
- ・ 生徒は現代的なダンスに興味を持っているが、指導する立場の世代は、経験していない者の方が多いため指導が難しい。
- ・ 知的障害の生徒に応じた内容のものがあまりない。
- ・ 予算の確保／外部指導者の費用確保
- ・ 認識面や体の動きに個人差が大きくあり、それぞれの実態に合わせた個別の指導・支援を考え、共有する点。
- ・ 視覚障害があるため模倣することが難しい。見て学ぶことよりも言葉で動きを覚えて練習するため時間がかかる。
- ・ 動けない生徒がどのような動きならできるのかの工夫。動ける生徒とのバランス。
- ・ 体育の授業で行なうと生徒の実態幅が大きく、できる生徒、できない生徒にわかれてしまう。
- ・ 障害（肢体不自由）のため、各部位の可動域が狭い。随意運動が困難である。車いすを利用しているなどの実態から動き（振付）のバリエーションに苦慮している。
- ・ 知的障害の生徒と肢体不自由の生徒と一緒に踊れる内容の創造
- ・ 障害の多様化で同じ授業グループにおいても様々な生徒がいるため、用いる教材の設定が難しい。さらにグループ分けをして行なうときもあるが、そうすると指導する教員が確保できない。
- ・ 様々な生徒（障害種）が在籍する中で作品を製作するにあたり、技能の細分化、優先をせず、みんなが楽しめる内容を重視し振付を考えること。
- ・ 教員側が多忙でダンスを創り上げる、練習しておく時間がない。

⑧ 質問①で舞踊（ダンス）を選択していない方に伺います。舞踊（ダンス）を活用しない理由は何ですか？

■ 「その他」の回答

- ・ 車いす児童生徒のためダンス等は出来ない。
- ・ 実態差が大きく一斉授業の題材としては別の内容を選択している。
- ・ 他のカリキュラムが充実している。
- ・ 体育の授業では障害の実態差が大きく、身体を動かすことが難しい生徒もいることからダンスは取り入れていない。また、肢体不自由の生徒は思うように身体を動かすことができないため、ダンスは適切な選択か疑問に思う部分もある。授業の前に少し“妖怪ウォッチ”を取り入れてやっていたことはあるが、授業として行なうのは難しいと感じた。
- ・ 治療体操的課題が本校では最優先になっている。
- ・ 時間がない。
- ・ 心因性により不登校になった子が多く、自己肯定感や成功体験に乏しく表現活動に入る準備ができていない。
- ・ やったことがないので導入が難しい。
- ・ 知的障害のある児童生徒に合った身体の動きを生かしつつ、児童生徒が自由に楽しく自分らしさを表現できるように指導できると良いが、指導力不足を感じる。
- ・ 1曲のダンスを踊る場合でも生徒の障害の程度に合わせて振付を数種類用意しなければならない点。

〈付録〉

文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（音楽、保健体育）」

■小学部

音楽

目 標	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽についての興味や関心を持ち、その美しさや楽しさを味わうようにする。	
内 容	1 段階	(1) 音楽が流れている中で体を動かして楽しむ。 (2) 音の出るおもちゃで遊んだり、扱いやすい打楽器などでいろいろな音を鳴らしたりして楽しむ。
	2 段階	(1) 好きな音や音楽を聴いて楽しむ。 (2) 友達や教師とともに簡単なリズムの特徴を感じ取って身体を動かす。 (3) 打楽器などを使ってリズム遊びや簡単な合奏をする。 (4) 好きな歌ややさしい旋律の一部分を楽しく歌う。
	3 段階	(1) 身近な人の歌や演奏などを聴き、いろいろな音楽に関心をもつ。 (2) 音楽に合わせて簡単な身体表現をする。 (3) 旋律楽器に親しみ、簡単な楽譜を見ながらリズム合奏をする。 (4) やさしい歌を伴奏に合わせてながら、教師や友達などと一緒に歌ったり、一人で歌ったりする。

体育

目 標	適切な運動の経験を通して、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む。	
内 容	1 段階	(1) 教師と一緒に、楽しく手足を動かしたり、歩く、走るなどの基本的な運動をしたりする。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った遊び、表現遊び、水遊びなどを楽しく行なう。 (3) 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をする。
	2 段階	(1) 歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動に慣れる。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中での運動などに親しむ。 (3) 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に運動をする。
	3 段階	(1) 歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動を姿勢や動きを変えるなどしていろいろな方法で行なう。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中での運動などをする。 (3) いろいろなきまりを守り、友達と協力して安全に運動をする。

■ 中学部

音楽

目 標	表現及び鑑賞の能力を培い、音楽についての興味や関心を深め、生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育てる。
内 容	(1) いろいろな音楽を楽器の音色などに関心をもって聴く。 (2) 音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現をしたりする。 (3) 打楽器や旋律楽器などを使って、自由に演奏したり、合奏や独奏をしたりする。 (4) 歌詞やリズムなどに気を付けて、独唱、斉唱、簡単な輪唱などをする。

保健体育

目 標	適切な運動の経験や健康・安全についての理解を通して、健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
内 容	(1) 体づくり運動、簡単なスポーツ、ダンスなどの運動をする。 (2) きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力して安全に運動をする。 (3) 自分の発育・発達に関心をもったり 健康・安全に関する初歩的な事柄を理解したりする。

文化庁平成 27 年度戦略的芸術文化創造推進事業

**「東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム」を見据えた障害者のための舞踊
による文化プログラム実施に向けての国内事例調査研究 調査報告書**

2016 年 3 月発行

発行 公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団

〒107-0062 東京都港区南青山 2-22-4 TEL : 03-3401-2293 FAX : 03-3401-2252

*無断転載・複写はお断りします。